

地区別会議で話し合われたこと

	地域でできそうなこと
中央地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援者、関係者間で細かに情報共有（担当者会議等）を行い、本人の状態の変化等を確認していく。 ・ そもそも実際に認知症があるのか？ 認定情報の b に振り回されているのではないか。 ・ 医療、介護の情報のすり合わせが必要。 ・ 本人は、今まで周りを巻き込んで生活してきたスタイルであり、本人は今の状況を困っていると感じていない。
小田地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常的な買い物に関する電子マネーは既存のものがある。 ・ 医療費なども、プリペイド的に支払いができるとうい 大隈病院や、各薬局ではキャッシュカードから引き落としで支払い可。 ・ 喜楽苑ヘルパーステーション 定期巡回サービス（排泄・配膳等で 1 日複数回介入可） ・ 地域の薬局による居宅療養管理指導 1 回/W 507 円/回 ・ まあるい食卓、杭瀬市場（多世代交流の場。70 歳以上の高齢者や子どもは無料） ・ 大隈病院 ～一つの病院で総合的支援～ <ul style="list-style-type: none"> 疾患の見極め（その人の精神疾患は遺伝性のもものでは？ など） MSW によるシームレスケア 頭部外傷などのチェック くまちゃん弁当（本人や HH が受け取りに行く配食サービス）
大庄地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 包括センターで行っている地域ケア個別会議に事例をあげる。 ・ 薬剤師による居宅療養管理指導を利用する。 ・ ADL 等身体評価をもう少し細かくみていくことができる。 ・ 糖尿病の血糖値コントロール 週 1 回の薬もある。錠剤、注射療法もあり。 ・ 本人の気持ちは？ 誰を一番信頼しているのか。 ・ 本人のストレングスは？ SOS を発信できるというストレングスを活かす。 ・ 本人はもともとどういう人だったのか？ 認知症が原因なのか？ きっちリアセスメントする。
立花地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問看護が必要であると感じるが、主治医からだけではなく、他職種からも必要性を言いたしてほしい。必要かどうか相談できる関係づくりを。 ・ ケアマネから主治医に専門医受診が必要かどうか伝える必要がある。言いにくければ包括 C に相談するのの一つ。 ・ 独居で身寄りのない方の支援について、包括 C 以外に相談できる機関が行政にあるとよい。 ・ 立花地区にはこういう人がいっぱいいる。普通にある話なので特別ではない。独居の人は周りの人とつながっていかなければ、民生委員だけでは対応できない。この夏は塩飴をもって町会長や民生委員で友愛訪問し、関係づくりをしている。 ・ 町会長や民生委員から困っている人の相談を受けるが、継続的なフォローはできていない。ここにこんな人が住んでいるというマップの必要性は感じる。 ・ 退院後に生活スタイルが大きく変わるという人がいるが、その際にかかりつけ医だけでなく、かかりつけ薬局にも関わっていくという仕組みが当たり前できたらよい。

地区別会議で話し合われたこと

武庫地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人が困っていない。頼りにできる人がいて、気に入る人の話は聞き入れやすいため、アプローチ方法が大事だと感じる。キーパーソンにも制度的なところと心理的なところをしてくれる２つが必要。後見制度も本人の意思が必要であり、今すぐは難しくても認知症の診断を受けておくことはよい。「後見」は難しい印象。 ・先生へ質問「ジェノベア」経過観察が必要ですか？入院しないといけないのか、訪問看護でいけるのか 訪問看護で可能 ・成年後見制度が使えるとよいと思うが、他者に通帳を預けることに今のうちから慣れておいてもらうために「権利擁護事業」(福サ)の提案もできる。本人の同意が必要。Bさんや管理人に「これ以上お手伝いできません」と言ってもらえるようなことも新しい支援者に交代する時に効果的。 ・そもそも本人が管理人にお金を預けた経緯がある。なぜそうなったのか。スーパー銭湯でBさんの食事や入浴代金を一緒に支払っているかもしれないし、孫を頼りにもできない。 ・武庫地区では訪問診療のできる歯科医師・歯科衛生士も多い。訪問看護についても月１～２回からでもよいのでCMやDr.から提案いただけたら、話相手にもなりながら介入できる。糖尿の数値を見るとすぐに不幸せな状態になると考えられる。糖尿病の悪化を防ぎたい。プライベート訪看(保険外自費)というのもやっている。毎日点滴に通って医院の往復でくたくたになっていた方に訪看で点滴に入り、１ヶ月で回復されたケースがある。 ・居宅療養管理指導で訪問しているケース、お薬写真を撮ってDr.に報告、相談したりしている。
園田地区	<ul style="list-style-type: none"> ・こうした人に認知症専門医としてどういう関わりをしているか？ 主治医のOKを取ってのち対応する。成田医院は専門医ではないが、長谷川式テストなどを取り入れている。担当医の得意分野を知っておくことが必要。生活背景が重要なので、関係者で集まって話をすべき。 ・民生委員はボランティアであるが、依頼すれば週に１～２回、大変な老人問題だけでなく不登校児などの対応もする(民生委員) 包括、社協、保健センターに聞くと担当の民生委員がわかる。 ・園田地区にはサロンが24ヶ所、いきいき百歳体操も24ヶ所ある。参加する時は包括、社協に連絡を。自主活動なので訪問してもらうなどは難しい。尼崎市のHPなどでご確認を。 ・地域支えあい活動、やまびこの会が発足。阪神医生協事務局に依頼を。園田、小田地区がメイン。会員外でもOK。 ・猪名寺、南清水でも1h500円で支援。支えあいの会が発足している。